

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます



SSKP

いずみ

No.
164

2012年3月

＊社会福祉法人 泉会＊

法人本部
泉の家

〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) FAX03(3417)3463
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/

日の出舎
就労日の出舎

〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) FAX042(597)2205
info@hinodesha.org
http://hinodesha.org/

グループホーム
いずみ

〒197-0825 あきる野市雨間322-12
☎042(550)9083
bwz12948@nifty.com

岡本福祉
作業ホーム

〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) FAX03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/

岡本ホーム
玉堤分場

〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) FAX03(5707)9433
tamututumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamututumi/

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇一二年二月六日発行(SSKP通巻四九八〇号)



新館の前で集合写真(日の出舎)

2011年度 いずみ会報聖句
『あなたの体のともし火は目である。目が澄んでい
れば、あなたの全身が明るいが、濁っていれば、体
も暗い。
だから、あなたの中にある光が消えていないか調べ
なさい。
あなたの全身が明るく、少しも暗いところがなけれ
ば、ちよと、ともし火がその輝きであなたを照ら
すときのように、全身は輝いている』
(ルカによる福音書11章34-36節)



理事長 橋向敏治

明るく活き活きした施設を

工式典が秋葉正二牧師(祐協会)の司式により滞りな
く行われました。喜ばしく嬉しく感謝です。

本年が昇り龍の如く社会が良くなると思われま
せん。このような状態の中にあり、沈着に辛抱強く、慎
重に歩みを進めて行きたいと存じます。利用者が希望
に溢れ、明るく、楽しく生きる喜びを日々感じられる
ような活き活きした施設経営を目指していきたいと
思います。自分のことにしか関心が向いていないのは、
目を閉じていることと同じ、その人の関心が外に向い
ていない状態です。今の時代の問題に目をそらさない
で、それを出来るだけ自分の責任に於いて受け止める
姿勢が大切です。周囲に巻き込まれて流されないよう
に、常にどのような姿勢をとるべきか、学びたいと思
います。自分がどんなに正しいと思っても、相手を包
み得ないような正しさというものは本当の正しさ
と云えないと思います。

昨年東日本の大災害の余燼がまだ覚めやらぬ社会
情勢、特に原発の放射能のため幼子を抱える若い親御
さんの不安感が増大し、対応に悩んでおられますこと
に心から同情いたします。

私共の福祉事業に今後ともご支援を頂きたいと願
い申し上げます。

祝日の出舎竣工

大勢の皆様のご支援と業者の方のご尽力により、2月20日（月）に竣工式を厳かに行いました。皆様本当にありがとうございます。

ここで、起工から竣工まで約1年間の写真で振り返ってみることにします。

2011年2月3日工事着工
設計監理：株式会社新環境設計様
建設：大成建設株式会社様

1 まずは、旧作業棟に囲いをし、解体。大きな機械（通称ユンボ）を数台で、旧作業棟の壁や屋根を大きなハサミで切り、そして掴むようにして解体して行きます。約1ヶ月程で写真のようになります。



2 旧作業棟の解体と同時に、就労日の出舎の作業継続のために、仮設作業棟を建てました。

しかし、仮設作業棟を建てるにあたり、東京都の環境条例に抵触することが判明し、一時工事を中断することとなりました。幸いにも、設計士と建設業者の努力により、その調査や書類の届け出が順調以上に上手く行き、直ぐ承認を得ることができました。

3月に入り東日本大震災の影響は、計画停電や建築資材不足という形で現れ、仮設作業棟（プレハブ造り）が約1ヶ月程遅れましたが、4月には作業場の引越しができました。



3 新館の土台になる部分の整地、数メートルも掘った基礎工事（土台作り）。ダンプカーやコンクリートミキサー車が数日間何10台も往来しました。

4月5日内輪だけで起工式を行い、その後工事現場の見学会を理事及び利用者全員を対象として、大成建設様の説明にて実施しました。この写真の3の風景です。利用者からは「こんなに深く掘って立てるんだ。安心だね。思ったより大きな建物になるんだね。」などの感想をいただきました。



4 いよいよ新館の棟上げです。新館建築の場所の周りに、10mほどの足場を組んだので、「中が見えない。」と利用者の

声がありましたが安全優先だから仕方ありません。毎日の利用者との朝の打合せで、工事の進捗状況報告でご勘弁。その足場が旧館居住棟のすぐ前なので、南棟の利用者の部屋には日が入りません。また、作業所入り口と旧館玄関の出入り口が隣接しているため、大型車の出入りなどで大変危険です。通院や送迎車と大型車の出入りが一緒になる事も、業者の方の判断と調整、何よりも専属の誘導員の方の気遣いと的確な誘導で、事故なく安全が保たれました。また、地域での工事車両の往来が多い時には、役場前の道路から日の出舎に来る谷戸の道路にも誘導員を配置し、地域の方の安全にも努めました。しかし、工事業者以外にも施設へ来る車両も少なくなく、30km制限も含め安全に留意するよう日々お知らせはしているのですが、守られないことがありました。職員の通勤時等の車両通行も含め、重要課題として受け止め、今後とも地域の方の安全には十分配慮して臨みたいと考えています。



5 10月、新館を覆っていた足場はずれ、3階建の建物がお目見えです。「ちよと地味な色合いだね。」と人の利用者からの声があったものの「大きいね。もったいないくらい立派な建物だね。早く入りたいな。」などと、利用者の期待度がマックスになった瞬間でした。

この様に足場や覆いが解体され、また、新館の周りも整理され建物が現実として目に触れるにつれ、期待が大きく膨らむもつかの間、施設では引越しの準備に大わらわ。職員は日常業務の合間に書類や備品の整理と梱包。利用者は、10年20年そして40年の生活をしてきた思い出の清算と荷物の整理をしました。

新しい建物での支援体制について、利用者が「安心・安全にそして楽しく生活するために」をモットーに、毎日議論しました。そして難関は、衛生面。ゴミブリヤダニなどの害虫を持ち込まない様に、駆除をどうするかでも日々検討。ようやく決まるところです。



6 新館完成

11月こんなに立派な建物が完成しました。

この建物に、2つの事業所（施設）、4つの事業が入ることになります。

「日の出舎」は、障害者支援施設と言いつつ、生活介護施設入所支援・短期入所の3つの事業を行います。

「就労日の出舎」は、障害福祉サービスと言いつつ、就労継続支援B型の事業を行います。

その頃、設計・建築業者と法人は、新築建物使用に関しての、行政官庁検査の事務手続きで大わらわ。大きな指摘もなく、すべての仮使用検査終了。無事、11月27日から新館に住めることに。

引越しの期間を1週間と定め、まずは大きな備品から搬入。次いで、就労日の出舎の作業備品など、そして利用者の荷物と事務書類など。普段からかわっていたにいたっているボランティアや家族会役員の方、また、法人内他施設の職員など大勢の方にお手伝いいただいたおかげで、予定通り怪我もなく完了しました。

新館での生活を支障なく送ることができるよう、数日間には普段よりも職員を多く配置し対応した結果、特段の問題もなく新しい生活がスタートできました。

新しい建物は、全館冷暖房完備、居室

は完全個室で、1階大浴場は床暖房、食堂とデイルームには、大型の映写システム、音響もよろしく設備は抜群。照明も多く、シャンデリアも数か所に。私としては、ランニングコストが心配です。



7 旧館解体

40年間、喜びも悲しみも一緒に分かち合ってきた旧本館とのお別れです。解体シーンをみるのは忍びなく、ここでは解体前の旧館の足場を組んでいる写真の掲載としました。大型重機が数台も入り、1カ月も経たないうちに跡形もなくなくなりました。唯、旧館北側で日の当たらぬ場所に植わっていた銀杏の木が残り、南側に残った3本の桜の木と共に40年間の歴史を継続することになりました。これから

は、南からの日差しを受けてより大きく育つことでしよう。



8 竣工

旧館跡地は、駐車場と緑地になります。思ったより広く、グラウンドや畑などとして使用しようと考えていた広場は、芝生を植えることにし、夏場は緑の絨毯の中で、大はしゃぎしたいと今から楽しみです。

1月18日無事建築確認済書があり、2012年1月20日に竣工となりました。

ここに無事新舎屋の竣工を迎えることができましたことは、ひとえに皆様のお蔭と、私ども法人職員一同心から感謝致しております。私共は、新しい決意のもと、より「層福祉の発展に努め皆様のご期待にお応えする所存です。何卒従来に増しましてご厚情、ご支援賜りますようお願い申し上げます。本当にありがとうございます。



（西田 徹）

特集

日の出舎オープン！

「新建物になって、 利用者の感想①」



金子三男さん
はじめまして、私は日の出舎に入所して5年目の金子三男男と言います。

授産施設での

出舎が昭和45年に建てられてから40年という月日を、私達利用者は生活訓練・作業支援の場として、お世話になりました。また40年間の思い出もあります。日の出舎が、平成22年10月頃から少しずつ建物が解体されて行くのを見てみると、色々なことが思い出され、寂しさを感じました。

そして、新しい建物が大分出来上り、平成23年11月27日に新しい日の

出舎に利用者が引越しをして、新しい日の出舎での生活及び活動が徐々に始まりました。初めて新しい日の出舎を見ましたが、色々な設備及び室内の明るさに驚きました。今までの旧日の出舎は4人部屋で、気を使ったりして、ゆつくりと落ち着けないの自分の時間を過ごせる場所がありました。

せんでした。またお風呂場にしても、身体を洗っている時でも寒かったりして大変でしたが、新しい日の出舎では一人部屋になり、ゆつくりとした自分の時間が過ごせると部屋に帰るのが楽しみにになりました。お風呂は設備が整っていて身体を洗っていても寒くないし快適に入浴ができます。そして建物内も色々な設備が整っていて、暖かく快適に過ごしています。これからは、新しい日の出舎での快適な生活及び活動が出来るのと同時に、私達利用者も新たな気持ちで楽しく過ご

して行きたいと思っています。そして新しい日の出舎を大事にしていくと共に、新たな思い出を作られて行くと思いますが、良い思い出として振り返られるよう頑張っていきたいです。最後に旧日の出舎に40年間ありがとうございました。

「新建物になって、 利用者の感想②」



下井宣長さん

新しい建物は素晴らしい特に個室が良いです。個室になって、他の利用者の目を気にせず

にテレビを見たり、本を読んだり、新聞を読んだり出来る環境が非常に良いです。住みやすい建物に変わって来て嬉しいですね。普段は、ロビーで新聞を見ることが多いですが、一人部屋でゆつくり過ごす時間も大変良いです。お風呂も以前の建物では、5・6年ほど湯船に入らずにシャワーだけの入浴だったが、新しい建物には車椅子ごと入れる湯船が出来て、ゆつくり温まる事が出来て嬉しいです。平日毎日入浴があるのも嬉しいです。食事業者が変わったわけではないが、ご飯がとてもおいしく感じ、食器も使いやすくなりました。リネン交

換が毎週1回あったり、洗濯支援も嬉しいですね。活動も今までと同じ事も多いが、新しい場所ですることによって、前とは違う活動をしているように思いますが、充実しています。映画は音が前よりも良くなりました。まだ始まっている活動もあるので、これから楽しみです。

（職員が聞き取り文章化しました）



居室の写真



特殊機械浴槽



屋上から庭を眺めた風景（一部工事中）



生活介護活動風景



就労日の出舎作業風景



屋上から南側を眺めた風景

泉の家だより

泉の家新年会

2011年度、全体で行なう最後の行事です。色々な世代の利用者がいるので、皆さんに喜んでいただけるイベントにしようと悩みました。

担当者の話し合いを何回か行なう内に、「地域の方とのコミュニケーションも大事にしよう」ということになりました。

そこで3事業全ての利用者と地域の方を混ぜてグループ分けをし、普段なかなかお話をしない方との関わり合いを一番大切にしました。

当日では代表者による「二人羽織」や、グループで話し合い答えを出す「昔の写真当てクイズ」を行いました。

職員の昔の写真では笑いや歓声が上がり、最高潮の盛り上がりを見せました。

生活介護の音楽の時間に練習しているハンドベル「ドレミの歌」の発表もしました。練習開始から約1年間。皆さん少し緊張気味でしたが、とても盛り

上がり楽しく発表ができていました。来年度も今以上に盛り上がり、地域の方との関わり合いを大事にしていきたいです。

（小林 淳史）



皆さんと一緒に楽しく行ないました

玉堤分場だより

講師を体験しました

玉堤分場の利用者である小松正男さんは、中野区で行われた高次脳機能障がいを対象としたボランティア講座の講師を依頼されました。今回は、この時の様子を文章に綴って頂きました。

「講師の話を伺った時、自分は高次脳機能障がいの意識も知識もないと断りました。初めて施設利用者として参加しました。初めに講座の打ち合わせを主催者、後援者で行い、順番と役割分担を決めた後、一緒に参加する職員の上原さんと相談しながら原稿を作りしました。講座は約20名の方が参加され、最初に東京都職員の上野さんが話をされました。高次脳機能障がいについて、とても

きるよう配慮しています。

食堂内は日当たりも良く、ゆったりした空気が流れています。が、食堂の外は有名店さんからの行列ができてしまっていることがあります。ただそれも、ゆとりを持って並んでいるようです。が…。

食事は利用者の生活の軸とも言え

ます。栄養や健康も勿論重要ですが、利用者のゆとりある生活、充実した生活につながるよう、今後も尽力したいと思っています。

（大河 美也子）



昼食風景



絵画の後片付けをしています



（内田 貴博）



講師として頑張りました

分かりやすい話でした。上原さんは施設の運営を具体的に話されました。私の原稿が上野さんの話と重複したので、急遽準備した原稿はやめ、高次脳機能障がいの方は、昔の経験など獲得したものに触れる事で、表情が輝くとの話をしました。

講座の最後には参加者の自己紹介と感想を伺いました。参加者の中には、子供を抱えた高次脳機能障がいの娘さんを持つ男性、患者さん、施設職員、興味を持つ施設の方、など様々な方がいらつしました。障がいの娘さんを持つ男性の方は、娘さんは社長をしていて病後は育児させていたが、娘さんの輝きを取り戻す様に変えたいとおっしゃっていました。また世田谷区の施設の具体的な活動を知り大変参考になったとのご意見も頂き、お役に立ったと安堵しました。」

小松さんお疲れ様でした。

グループホーム いずみだより

グループホームいずみクリスマス会

宮原 美雪さん

12月17日、グループホームいずみクリスマス会が行われました。

今回は、料理の注文やケーキなどの買い物、プログラムの構成、参加人数の確認、プレゼントの値段まで実行委員の人を中心にみんなで意見を交換しながら準備を進めてきました。

スタッフの中には都合により参加出来なかった人も居ましたが、赤坂さん



クリスマス会楽しかったよ

日の出舎だより

日の出舎の食事情

利用者の新生活が始まり、食事の時間や環境も変わりました。

食事の開始時刻は施設や病院特有の「朝食が遅く、夕食が早い」ではなく、なるべく一般の生活に近づけ、また、新生活のコンセプトである「ゆとり」を持ちながら、集団生活の中でも個々のスタイルが尊重されるよう、食堂を開けている時間を長めに設定し、好きな時に来ていただけるようにしました。食堂内のレイアウトも、テーブルや椅子の数を減らし、ピーク時は食器洗浄機を動かさないなど、ゆとり食事ので

岡本ホームだより

環境整備をして快適に！

岡本ホームは今年で開所して27年目となります。施設の設備も古くなってきたもの、壊れているために廃棄するもの、利用者の障がい特性を考慮し

今年クリスマス会も昨年以上に盛り上げていきたいと思っています。

ながら改修が必要なものがあります。現在予定しているものが「障がい者用和式トイレ」から「洋式トイレ」への改修です。現在は「和式トイレ」を使っている利用者がいないことや洋式トイレの需要が高くなっていることもあり改修することになりました。利用者も新しくなるトイレを楽しみにしています。

古くなった設備では「洗面所の水道」です。水道から出る水は冷水だけなので、冬

場は特に手を洗う度に冷たく感じます。利用者は冷たい水



改修予定の和式トイレ

ですが、食事前、作業後は必ず感染予防のためにきれいに手を洗うことを心がけています。また長時間水を使う作業では湯沸かし器のお湯を使うなどをして工夫しています。洗面所の水道から温かいお湯がでたら便利なのですが、なかなか工事は難しいようです。利用者の皆さんの協力により、今ある設備で作業することができています。

また他にも「自動ドア」などの古くなった設備で不具合があった場合はすぐに業者に対応してもらうなど安全確保に努めています。

古いながらも今ある設備を大切に扱い、必要なものは改修しながら安全で快適な施設を今後も目指していきます。

（有馬 恵子）

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可（毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行）
二〇二二年二月六日発行（SSKKP通巻四九八〇号）

縁あつて泉会

就労継続B型の自主生産品

「ワンちゃんのためのクッキー」に携わって頂いている方にインタビューしました。

〈参加して頂いた方〉

・ベルヴェット動物病院

鈴木隆之院長

・ボランティア

島村様・蒲地様

・泉の家職員 小林・本田

クッキー製作は職員も経験がなく製品とするのに多くの不安と試行錯誤を繰り返しました。

島村さんは、使える材料が限られる中、分量の配分など色々と考えて提案して頂きました。

蒲地さんには、商品の販路やアイデアを出していただき、動物病院の先生にも声をかけて下さり、販売や新製品の開発までしていただきました。

鈴木院長は、製品を受入れてくださり、アドバイスを細かくいただきことで、利用者の方の意欲もますます向上しています。



右から蒲地さん・鈴木院長・島村さん・小林職員

Q 動物病院で販売してみても、患者さんの反応はいかがですか？

院長 好評です。防腐剤も入っていないし、患者さんには「カビるので安全です。（笑）」と伝えてあります。食べきりサイズなのもいいですね。犬は、食べるサイズより何回も貰う方がうれしい。トレーニングは回数を重ねるものだが、食べる量を増やすには限界がある。嗅覚がするどいので、かけらでも大丈夫。

蒲地さん 以前は、1個が大きいサイズだったのですが、小型犬も多いので小さいものを作れないか、泉の家に提案してみました。

小林職員 小さい型は扱いが難しいかと思いましたが、利用者の方も上手く使いこなしています。

島村さん 麻痺があったりしても色々な工夫をしてクッキー作りをしていますね。また、衛生管理の徹底ぶりに驚きました。アルコール消毒をこまめに行い、マスク・帽子は1回ずつ使い捨てなんです。みんなが、とても熱心にクッキー作りを行なっていますよね。

小林職員 利用者の方も動物病院で販売できることで、作業意欲が向上しています。

Q 新製品のアレルギー対応のドッグクッキーは院長からの提案でした。提案のきっかけは？

院長 最近アレルギーの犬が増えている。同じドッグフードを与え続ける事でアレルギーになっってしまう。そうすると、ペット業界全体が同じようにアレルギーを避けた食材を使用した商品にシフトしていき、また、違う肉でアレルギーになってしまふ。今回のビーフレバークッキーだけでなく、種類を増やしていったらいい。



愛犬にも安心して食べて頂けます

今回の販売までは、お互いの信頼関係と信用があるからこそ繋がる事ができました。この関係に感謝し、引き続きより良い製品を販売していきます！（本田 羽瑠香）

チャリティコンサート (成城音楽祭)

社会福祉法人 泉会・いずみ友の会・
東京成城ロータリークラブ共催
後援 世田谷区

早稲田大学コールフリーユージュのOB
「三月会」による男声合唱

国際キリスト教大学グルーククラブOB
「オルデン・ゲート・カルテット」による男声合唱

日時 2012年3月14日（水）

18:30開演 20:30終演

開場 18:00

場所 成城ホール

※入場無料（要申込み）

※東日本大震災の募金活動も行います